

# バスケットボール協会

昭和 39 年（1964 年）創立

## 【茅ヶ崎の動向】

茅ヶ崎バスケットボール協会は、昭和 39 年（1964 年）、当時東陶機器（株）バスケットボール部の五十嵐清夫（現会長）らが中心となって設立した。初代会長は、当時県議員であった添田良信氏。設立当時の一般の大会は、春季、秋季及び添田杯の年間 3 大会、登録チーム数は、定かな記録は残っていないが、市内外実業団チームを中心に、男女で概ね 20 チーム程度と聞いている。また、市内バスケットボールの底辺拡大のため、中学の春季大会の開催を手掛けた。

一般の部においては、1980 年代後半から実業団の衰退とともにチーム数は減り始め、現在の登録チームは男子 7 チーム、女子 3 チーム。チーム数は、毎年増えたり、減ったりで安定しない。実業団チームは、東陶機器と市役所のみで、あとは学生を中心としたクラブチームである。大会は、9 月の夏季大会、11 月の秋季大会及び 2 月の冬季大会の年間 3 大会、平日夜間に茅ヶ崎市総合体育館を借用して開催している。

6 月の日曜日には、「一日大会」として市教育委員会主催大会を主管している。参加料の無料がいいのか、日曜日の大会だから参加しやすいのか、この日ばかりは協会主催大会の 2 倍以上のチーム数が集まり運営に苦慮している。

ミニバスケットボール（小学生）団体については、1980 年代前半は 2 団体（2 小学校）程度であったものが、現在は 9 団体となっている。市内全域の小学校区を網羅するまでには至っていない。チーム数は増えたが、各団体とも団員数が減少傾向にあることが悩みである。少子化の影響というよりは、当番制や団体行動を嫌う保護者の増加、また、夫婦共働き、母親のパートなど、ライフスタイルの変化が大きく影響していると考える。ミニバスケットボールの協会主催大会は、春の新人戦と秋の交流大会。

中学のバスケットボールについては、学校体育の分野であり、基本的には中学校体育連盟バスケットボール専門部の所管である。協会は、春季大会及び松尾杯を主催しているが、賞品の提供、会場の確保など、側面的なサポートが中心である。

高校のバスケットボールは、高等学校体育連盟、湘南協会および県協会の管轄であり、本市協会との関係は薄い。

ここ数年、東陶機器（株）女子バスケットボール部（全国実業団チーム）が、「茅ヶ崎をバスケットの街に」をコンセプトに、企業としての地域貢献事業の一環として、ミニバスケットボールの教室や大会を企画し、また、中学・高校との交流事業を精力的に実施している。施設のにも、人的にも、また資金的に

も厳しい本市協会にとって、こうした企業のバックアップは大変心強いし、ありがたい。

### 【国の動向】

日本バスケットボール協会は、昭和 5 年（1930 年）大日本バスケットボール協会として設立。昭和 51 年（1976 年）法人化により、財団法人日本バスケットボール協会となる。

平成 16 年（2004 年）に日本リーグ機構（JBL）に所属していた新潟アルビレックスと埼玉ブロンコスが bj リーグ（日本プロバスケットボールリーグ）を設立し、協会と bj リーグは断絶する。

平成 18 年（2006 年）度補正予算を審議する評議委員会で、世界選手権の赤字 13 億円に対し執行部の責任問題が浮上、その後約 2 年間の内紛が続くが、平成 20 年（2008 年）8 月、麻生太郎衆議院議員を会長に迎え、混乱は収束に向かっている。

### 【歴代協会役員】

\*協会役員の歴代名簿は、協会として整備していないので不明な部分が多い。

- (1) 昭和 39 年（1964 年）～（不明）  
会長 添田良信  
※理事長その他役職者  
不明
- (2) 添田会長の退任後会長・副会長は不在、理事長のみ  
～昭和 62 年（1987 年）3 月  
理事長 梅津乃布夫
- (3) 昭和 62 年（1987 年）4 月  
～平成 5 年（1993 年）3 月  
会長 原橋 義章  
理事長 栗原 謙二
- (4) 平成 5 年（1993 年）4 月  
～平成 15 年（2003 年）3 月  
会長 五十嵐清夫  
副会長 原橋 義章  
理事長 栗原 謙二
- (5) 平成 15 年（2003 年）4 月～現在  
会長 五十嵐清夫  
副会長 原橋 義章  
理事長 葛西 修



(H20(2008).8.4 ゆかりのまち 岡崎市とのミニバス交流大会)